

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_a_Gt	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	内田 充	実務経験の有無・職種	有・プロギタリスト		
<b>学習目的</b>					
この科目を受講する学生は、企画・制作・販売等がボーダレスな今の音楽業界において、ギタリストとしての多角な視点での音楽力を養うことを目的とする。ギタリストとしてのテクニック、知識、スキルの習得を目的とするが、音楽以外の情報もレッスン内で情報提供を行う。ギタリストとしての仕事のみならず、自分の周りの音楽家の仕事についても理解を深める。					
<b>到達目標</b>					
プロギタリストとして必要な専門知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築する。プロギタリストとして演奏力を高めるには、演奏練習だけでは到達できません。演奏に付随する理論、知識、経験など総合的に身につけることにより、自らのプレイが変化していきます。ギターを中心に、周辺の楽器、または、業界の情報にも興味を持つことを目標としている。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業では、読譜、各スケールに準じたエチュード、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶと共に、あらゆるジャンルの楽曲に触れ、その演奏スタイルや表現力を養う。メトロノームやバックトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。なお読譜、リズムトレーニングは随時授業内で行っていく。				
注意点	この授業では、テクニックの向上を図ることだけを目的とせず、ギタリストとして何を求められているのか？を常に模索できるような音楽的視点に基づいた俯瞰力にも注目する。理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	オリエンテーション	授業の説明、課題について、各自の目標設定。また聴く力、読み取る力、咀嚼について理解する			
2回	基礎トレーニング①	各スケールの確認、デイリートレーニングの紹介など			
3回	基礎トレーニング②	エチュード練習 その1			
4回	基礎トレーニング③	エチュード練習 その2			
5回	基礎トレーニング④	コードアルペジオ～ダイアトニックコード その1			
6回	基礎トレーニング⑤	コードアルペジオ～ダイアトニックコード その2			
7回	基礎トレーニング⑥	コードアルペジオ～サイクルシーケンスⅡ その1			
8回	基礎トレーニング⑦	コードアルペジオ～サイクルシーケンスⅡ その2			
9回	フレーズ研究①	Ⅱ-V、ドミナントモーション その1			
10回	フレーズ研究②	Ⅱ-V、ドミナントモーション その2			
11回	フレーズ研究③	ペンタトニックスケールの応用 その1			
12回	フレーズ研究④	ペンタトニックスケールの応用 その2			
13回	インプロビゼーション①	課題曲 その1			
14回	インプロビゼーション①	課題曲 その2			
15回	まとめ	全体のまとめ			

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_b_Ba
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ベース）	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	上野 一郎	実務経験の有無・職種	有・プロベシスト	
<b>学習目的</b>				
この科目を受講する学生は、ベースという楽器の特性や演奏の仕方を理解し、音楽の中でベースラインを自由に作れるようになることを目指す。同時にコード理論・構成音を把握した上で対応できるスケールを使用しラインを構築できるようになることを目的とする。基礎的な理論・技術を再確認し、フィジカルなトレーニングで身に付けたテクニックを最大限に引き出せるように蓄積したものを反映できるようにしていく。卒業ライブでの成果を上げることも目的の1つである。				
<b>到達目標</b>				
基礎的な演奏能力をしっかりと身に付けること。また各種イベント、Real Dreams、卒業ライブ、外部オーディション等に対応できるように知識と技術を向上させることを目標とする。 また様々なジャンルに対応できるテクニックを習得し卒業後も幅広く活動できる能力を身に付けることも目標である。 技術と知識は表裏一体であることを重んじていく事が技術向上の最大のポイントである。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	この授業では、基本的なリズムやビートなどベシストにとって重要な概念の理解、音楽理論の理解、演奏能力の向上を目指し、譜面によるエクササイズとそのエクササイズによる練習曲を交互に行っていく。 また楽曲分析を行い、適切な音選びが行えるように指導していく。			
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。配布資料は毎回持参、毎回のレッスンにて習得したテクニックは反復練習を欠かさず行う事。フィジカルなトレーニングがメインになるので体調管理も必要である。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	スケールの理解とトレーニング①	マイナーペンタトニック、ブルーススケール、ミクソリディアンスケールの理解		
2回	スケールの理解とトレーニング②	マイナーペンタトニック、ブルーススケール、ミクソリディアンスケールと調性についての理解		
3回	音価のコントロール	ひとつひとつの音を大事に理解しながら引くこと		
4回	フィンガリングトレーニング①	早いパッセージを正確に弾くこと		
5回	フィンガリングトレーニング②	アルペジオを正確に弾くこと		
6回	楽曲におけるベースラインとは	全体のベースライン構成を把握しながら演奏する		
7回	スケールの理解とトレーニング③	マイナーペンタトニックスケールについて理解を深める		
8回	フィンガリングトレーニング③	早いパッセージをひとつひとつ正確に弾いていく		
9回	フィンガリングトレーニング④	早いパッセージをひとつひとつ正確に弾いていく 転調への対応		
10回	リズムックバリエーション①	テンポをできる限り上げて弾いてみる		
11回	リズムックバリエーション②	全体を正確に弾いてみる		
12回	音楽理論とライントレーニング①	アルペジオをバランス良く正確に弾く		
13回	音楽理論とライントレーニング①	コード進行を正確に認識して演奏する		
14回	リズムバリエーショントレーニング	テンポをできる限り上げて弾いてみる		
15回	前期まとめ	全体を正確に弾いてみる		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_a_Dr
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	各自スティック持参 参考資料、音源は授業内で提示します。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	下田武男	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>				
一年次に習得した知識・実力をベースにしつつ、改めてドラムを演奏する上での基本的なグリップとフォーム、フットペダルの踏み方と足の使い方の再考・見直しからスタートし、基礎ルーティメントの応用と実践、基本的なリズムワークをレクチャーして行くことで、ドラマーとしての総合的なテクニック（スティック&ペダルワーク）の向上を計ります。				
<b>到達目標</b>				
多種多様なあらゆるジャンルの音楽スタイルを学び、楽しみながらドラムをプレイすることでの自己表現（タイム&タッチ&トーンを意識しつつ）が出来る様に学生を育成、指導して行きます。音楽は歌う人と音を奏でる人同志の合奏であるという意識を持ち、ただテクニックに頼るのではなく、ドラムを通して音楽の中でのコミュニケーション（会話）能力を高めていく授業を目指します。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	この授業は個人マンツーマンの形ではなくグループレッスンの形態で行います。学生同士お互いの得意;不得意、また各々のキャラクターと魅力的な部分をお互いにリスペクト・理解し合う事の大切さ、それをどのように学生に伝えていくかを意識しながら授業を進めます。授業を通して、単にテクニック面だけではなく、音楽に真摯に向き合い、音楽を生かすプレイ&アプローチの出来るミュージシャンの育成を目指します。			
注意点	この授業では学生間または講師と学生のコミュニケーションを重視します。リハーサル・本番など実際の現場の観点から、授業スタジオ内の私語などには丁寧に注意・説明し対応します。単に授業に出席するのではなく、実現場を前提としたマナー、ミュージシャンシップを意識する。各学生とも卒業後に実現場、実社会で起こり展開して行く様々な事々に、自分なりのヴィジョンを持ちながら対処し進めて行けるように指導・応援して行きます。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	基本グリップ、フォームの再考	各学生ごとに自分に適したグリップ、フォームのチェックを行う		
2回	基本フットペダルワークの再考	各学生ごとに自分に適したペダルの調整、踏み方のチェックを行う		
3回	スティックワーク（1）	打面からのリバウンド、スティックに生ずる遠心力をを理解する		
4回	スティックワーク（2）	リバウンド、遠心力とフォームのバランスについて理解する		
5回	ペダルワーク	スプリング特性、ピーターの遠心力、足の動きの連合性について理解する		
6回	リズムワーク（1）	スティック&ペダルワークの実践：8ビート系		
7回	リズムワーク（2）	スティック&ペダルワークの実践：16ビート系		
8回	リズムワーク（3）	スティック&ペダルワークの実践：シャッフル、スィング系		
9回	アクセントと表現（1）	8分、16分、3連符でのあらゆるアクセントの実践		
10回	アクセントと表現（2）	アクセントと歌うドラミング：フレーズ編		
11回	アクセントと表現（3）	アクセントと歌うドラミング：リズム編		
12回	ダイナミクスと表現（1）	ヴォリュームコントロールと音色の再考、実践（タッチ&トーン）		
13回	ダイナミクスと表現（2）	ダイナミクスによるリズムワーク、フレージングの表現力の幅を広げる		
14回	ダイナミクスと表現（3）	ダイナミクスによる1曲単位の中での表現力（ストーリー性）の幅を広げる		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_a_Key	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（キーボード）	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	杉山 泰		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>					
この科目を受講する学生は、ピアノを中心としたキーボード全般をプレイする上での様々なテクニックを、バランス良く身につけていくことにより、学内、学外での音楽活動、ライブ、レコーディングなどの現場に於いて、存分に能力を発揮できるよう、しっかりと実力を身につけていくことを目標としている。					
<b>到達目標</b>					
この科目では、自分の得意なジャンル、スタイルだけでなく、現場での様々なリクエストに対応できるように、柔軟な姿勢とオープンマインドで音楽に取り組むことができるように日頃から練習に取り組むことを習慣づけたい。苦手なことでも、あきらめずになんとか工夫して乗り切れるだけのタフな精神力で、卒業後現場で活躍できるようにしっかりと準備していくことを目標とする。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業では、一つ一つの課題に丁寧に付き合い、しっかりと復習することが大切です。個人のスキルを上げていく授業なので、授業以外の時間でしっかりと練習をすることが、授業の効果をより高めることとなります。				
注意点	毎日の練習を欠かさず取り組むよう、課題を丁寧に理解し、一つ一つを丁寧に練習する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業時間の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ブルース 1	ブルースフォームの理解と基本的な知識			
2回	ブルース 2	基本的なコード伴奏			
3回	ブルース 3	ブルースハノン 1			
4回	ブルース 4	ブルースハノン 2			
5回	ブルース 5	右手のフレーズ 1			
6回	ブルース 6	右手のフレーズ 2			
7回	復習テスト	ブルースのまとめ			
8回	ブルグミュラー 1	右手パート とテーマの確認			
9回	ブルグミュラー 1	左手パートと終止形、構成のアナリゼ			
10回	ブルグミュラー 1	両手			
11回	ブルグミュラー 2	右手パート とテーマの確認			
12回	ブルグミュラー 2	左手パートと終止形、構成のアナリゼ			
13回	ブルグミュラー 2	両手			
14回	ブルグミュラーまとめ	2曲を仕上げる			
15回	中間テスト	ブルグミュラーの課題曲を演奏し、内容の理解を評価			

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_b_Bs
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ベース)	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	必要資料はプリントなど配布する			
担当教員	田中 亮輔	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>				
<p>臨時記号や調合などの基礎知識はもちろん、自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていくと同時にアンサンブルにおいて自分がどのような演奏をするのが良いかを感じ取ってもらう。</p> <p>リードシート、実音記譜譜面、マスターリズム譜等、プロフェッショナルが現場で使用する譜面を用いて現場対応がすぐにできることを最大限の目的とする。ポピュラー音楽に特化したものだけではなく、幅広いジャンルに対応できるようになることが重要である。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>譜面をしっかりと読むと同時に様々なジャンルの音楽と接し、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。</p> <p>特にコードネームとハーモニックリズムのみのリードシートからの楽曲の理解度を深められるようになることを目標とする。</p> <p>現場対応の譜面を使用することにより、卒業後もセッションサンサンブルで対応できる読譜力を身に付けることが重要である。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	<p>課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。</p> <p>フレーズの音楽的分析、先人たちの有名フレーズを習得し、さらに発展させる作業も行う。</p> <p>読譜と累積した（聞いて習得したフレーズ）をオリジナル楽曲に反映させていくことも行う。</p>			
注意点	<p>五線紙は必ず用意し、常にメモは取ること。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることはできない。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。興味のあるフレーズは記録すること。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ヘ音記号について（1）	楽器上で表現可能な音域の把握		
2回	ヘ音記号について（2）	楽器上での同音異フレットの把握		
3回	各種音符・休符について（1）	音価、読み・書き方を知る		
4回	各種音符・休符について（2）	実際に演奏し感覚を養う		
5回	各種音符・休符について（3）	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う		
6回	スラー・タイについて（1）	音価、読み・書き方を把握する		
7回	スラー・タイについて（2）	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う		
8回	シンコペーションについて（1）	音価、読み・書き方を知る		
9回	シンコペーションについて（2）	実際に演奏し感覚を養う		
10回	シンコペーションについて（3）	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う		
11回	臨時記号について	音とポジションの把握		
12回	調合について	各種キーにおける音とポジションの把握		
13回	調合と臨時記号について	調による臨時記号表記の違い		
14回	転調について（1）	既存曲を用い、転調による雰囲気の変化を感じ取る		
15回	転調について（2）	既存曲を用い、転調による音やポジションの違いを把握する		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_b_Dr
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	All American Drummer・SYNCOPATION等の海外教則本、プリント、			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	麻生祥一郎	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>				
配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。				
<b>到達目標</b>				
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜すること。 1年次よりも高度な表現で演奏。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。			
注意点	遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話するとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	各音符休符のチェック（1）	4分8分16分		
2回	各音符休符のチェック（2）	4分8分16分バリエーション		
3回	各音符休符のチェック（3）	ニュアンス、ダイナミクス、各コントロール		
4回	5連符7連符	様々なテンポで叩き分ける		
5回	付点音符休符	各音符の理解、音楽的演奏		
6回	スラー、タイ等	使い方の理解、初見演奏		
7回	シンコペーション（1）	使い方の理解、初見演奏		
8回	シンコペーション（2）	各ジャンルのニュアンス等、音楽的演奏		
9回	変拍子	読み方使い方の理解		
10回	譜読み総合（1）	音符休符の初見演奏		
11回	譜読み総合（2）	ドラムパターン、フィル等の初見演奏		
12回	ルーディメント（1）	各パラディドル		
13回	ルーディメント（2）	フラム、ドラッグ		
14回	ルーディメント（3）	ロール		
15回	まとめ	前期まとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_b_Gt
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	楽譜、教材を講師が作成し配布し教材とする			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	鳥居隼	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
<b>学習目的</b>				
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リピートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせるにより、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。				
<b>到達目標</b>				
3週間に1回、全コースとアンサンブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。			
注意点	この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験	100%	発表会形式でのテスト	
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	平常点	0%		
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	課題曲（1）リーディング	各パートごと課題曲のリーディング		
2回	課題曲楽器陣合わせ	楽器陣のみで曲の全体合わせ		
3回	課題曲全体合わせ	Vo.と共に全体合わせ		
4回	課題曲全体合わせ	男子、女子各1曲ずつ合わせ		
5回	課題曲（2）リーディング	楽譜通りに演奏、足りないスキルの向上		
6回	課題曲（2）楽器陣合わせ	楽譜でのリーディング能力の的認		
7回	課題曲（3）リーディング	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える		
8回	課題曲（3）楽器陣合わせ	エフェクター等により音作りの面でも楽曲に対する対応力の向上		
9回	課題曲(2)全体合わせ	アッパーストラクチャートライアドの理解		
10回	課題曲(3)全体合わせ	男子、女子各1曲ずつ合わせ		
11回	課題曲（4.5）リーディング	楽譜通りに演奏、足りないスキルの向上、楽器陣のみでのBANDサウンドの確認		
12回	課題曲（4.5）楽器陣合わせ	楽器陣のみでのBANDサウンドの確認		
13回	課題曲(4.5)全体合わせ	Vo.と共に全体合わせ、バランス、アンサンブル・パフォーマンスを向上させる		
14回	前期試験発表会	前期試験発表会 リハーサル		
15回	前期試験発表会	前期試験発表会		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_b_Key
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(キーボード)	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	材毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	金澤法皇	実務経験の有無・職種	有 音楽講師、鍵盤講師、鍵盤奏者	
<b>学習目的</b>				
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。実際には各楽器（ギター・ベース・キーボード・ドラム）、ヴォーカリストコースの学生と同じ課題曲を練習し、アンサンブルの力・ステージングを学んでいく。				
<b>到達目標</b>				
この科目では、学生が鍵盤楽器の様々なジャンル（ポップス・ロック・ソウル、R&B、ジャズなど）奏法を学ぶ事と、曲づくり、アレンジにおいて必要なことを鍵盤を使って学び実践して行く事を目標とします。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏技術、そして特に読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ技術も身につける。			
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	実践形式での授業内で理解度を把握するので、実施しない	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するためにたまに実施する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	1年次の復習	1年時に培った技術のおさらい、7thコードの初見		
2回	楽曲ごとの読譜1	様々なジャンルの曲の読譜、ポップス、ロック中心		
3回	楽曲ごとの読譜2	様々なジャンルの曲の読譜、ソウル、R&B、ジャズ中心		
4回	7thコードのテンション1	7thコードのテンションの基礎		
5回	7thコードのテンション2	7thコードのテンションの実践、初見		
6回	テンションコード1	テンションコードの基礎		
7回	テンションコード2	テンションコードの実践、初見		
8回	楽曲ごとのテンションの使い分け1	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ポップス、ロック中心		
9回	楽曲ごとのテンションの使い分け2	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ソウル、R&B、ジャズ中心		
10回	ポピュラー音楽でのテンション感	主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け		
11回	ジャズ、R&B1	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見の解説		
12回	ジャズ、R&B2	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見を課題曲を使用して実際に演奏		
13回	テンションコードの初見1	実際の現場に近い形での初見演奏		
14回	テンションコードの初見2	実演の総復習 リハーサル・ステージング		
15回	まとめ	総復習 アンサンブル形式で他楽器・ヴォーカリストコースの学生と合わせる		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_c_Dr
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	スティックコントロール、シンコペーション、ADVANCED CONCEPT、JACK DE JHNETTE、その他			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	堀越彰	実務経験の有無・職種	有・プレイヤー	
<b>学習目的</b>				
<p>ドラマーがアンサンブル内でやるべきことは多岐に渡ります。アンサンブル上、最初に音を出す楽器であることが多い為、他の楽器をまとめる基礎知識、基礎力が重要となる。基本的な技術力と応用力を習得し、行き来きすることができる音楽家になることをめざす。アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につけ、アンサンブルをよりよくするテクニックを身に着ける。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>スティックの握り方、ドラム椅子の座り方など基礎中の基礎をもう一度見直すところから始める。基本をしっかりと学ぶことにより、アンサンブル内でのドラマーとしての役割を十二分に発揮できるようになる。1年は8ビート、16ビート、三連符、シャッフルビートなど、現在の音楽業界でよく使われるビートへの理解を深めていく。すべてのフレーズを楽譜を見ながら叩けるようになり、楽譜から音を出せることを目標とする。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	練習台によるスティックコントロール、ドラムセットによるグルーブとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチのトライ。			
注意点	出席率を重要視します。続いて個々の目標に積極的に向かい向上しているか、個人練習の時間をしっかり取れているか。ドラムの上達には日々の個人練習も重要である。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	70%	試験結果による評価	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	30%	授業態度による評価	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	スティックコントロール1	8分音符を基本にしたスティックコントロールと基本リズムアプローチ		
2回	スティックコントロール2	16分音符を基本にしたスティックコントロールと基本リズムアプローチ		
3回	リズム	8分音符、16分音符のリズム上での基本パターンの習得		
4回	リズムの応用	8分音符、16分音符のリズム上での応用パターンの習得		
5回	パラディドル①	パラディドルの基本を学ぶ		
6回	パラディドル②	パラディドルのリズムへの取り入れ方		
7回	パラディドル③	パラディドルの応用フレーズの習得		
8回	3連符とシャッフルビート①	3連符とシャッフルビートの基本パターンの習得		
9回	3連符とシャッフルビート②	3連符とシャッフルビートの応用パターンの習得		
10回	両手のコンビネーション	教則本スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションの基本		
11回	両手のコンビネーション	教則本スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションの応用		
12回	シンバルレガート	教則本 スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションとシンバルレガート		
13回	シンバルレガート	教則本 スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションとシンバルレガート		
14回	前期の復習	8ビートの基本パターンの復習、8ビートのフィルインの習得		
15回	前期の復習	16ビートの基本パターンの復習、16ビートのフィルインの習得		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン1_c_Key	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（キーボード）	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	プリント配布				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	平下政志	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン/アレンジャー/コンポーザー		
<b>学習目的</b>					
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認 コード進行の確認 様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する。課題曲によってボイシングやアドリブを充実させていく。					
<b>到達目標</b>					
2年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にする。Chameleon、Freeway Jam、Cantaloupe Island、Sunny、Led Boots、he Chicken、Spain、Feel Like Makin' Loveなど様々なジャンルの課題曲でアンサンブルができるよう指導する。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。				
注意点	課題曲に対する下準備。譜面は忘れずに必ず持ってくる。キーボードはコード進行でボイシングの為に譜面を読んでおく必要があります。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	60%	演奏を聴いての評価		
	平常点	40%	出席率、および授業への参加姿勢		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	7コードの理解1	7コードの理解 ブルーノートのコード			
2回	7コードの理解2	7コードの理解 ブルーノート7コードのスケール			
3回	7コードの理解3	ドミナント7コード			
4回	7コードの理解4	ドミナント7コードのスケール			
5回	7コードの理解5	ドミナントモーション			
6回	7コードの理解6	7コードを使ったアドリブフレーズの作り方			
7回	7コードの理解7	7コードを使ったアドリブフレーズの作り方 課題曲使用			
8回	9コードの理解1	アップーストラクチャートライアドのヴォイシング			
9回	9コードの理解2	リディアングリップ(9コードのヴォイシング)			
10回	9コードの理解3	裏コードと代理コード			
11回	9コードの理解4	9コードを使ったフレーズの作り方			
12回	9コードの理解5	9コードを使ったアドリブフレーズの作り方			
13回	フォースインターバルビルド1	フォースインターバルのヴォイシング			
14回	フォースインターバルビルド2	フォースインターバルとスケールの関係			
15回	フォースインターバルビルド3	フォースインターバルを使ったアドリブフレーズの作り方			